

事務事業名		岩手県三陸鉄道強化促進協議会参画事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画登録事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略登録事業																								
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な生活環境の創造		事業期間																									
	施策名	交通・港湾物流ネットワークの充実		区分																									
	基本事業名	公共交通網の整備・充実		単年度繰返																									
根拠法令		岩手県三陸鉄道強化促進協議会規約		※期間欄に開始年度を記入																									
所属	部課名	商工港湾部企業立地港湾課		【開始年度】																									
	課長名	大和田 達也		昭和59 年度～																									
	係名	交通通信係	電話	0192-27-3111																									
	担当者	平田 将大	内線	120																									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																									
<p>三陸鉄道への利用促進支援による地域の交通利便性の確保と地域振興・活性化を目的としている岩手県三陸鉄道強化促進協議会の事業に参画する。同協議会は、三陸鉄道を活用した沿線地域の魅力発信、誘客等に資する各種事業を実施している。事務局は、岩手県ふるさと振興部交通政策室が担っている。構成団体は、岩手県と三陸鉄道沿線等12市町村であり、各団体は同協議会へそれぞれの負担割合に応じ、負担金を支出している。負担割合は、(出資額割+財政力割+駅数割+人口割)/4で算出され、当市は16.8%である。</p> <p>協議会事業は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイルールさんてつ推進事業(園児お絵かき列車支援、イベント等支援) ・沿線利用促進事業(市町村等の企画支援) ・利用者補助事業(団体・貸切利用費を一部補助) ・誘客強化支援事業(営業旅費等支援、観光ガイド派遣、PR素材強化支援) ・戦略的情報発信強化事業(広告掲載等) ・企画列車等造成支援事業(企画列車の支援) ・ふるさと納税活用(開業40周年関連事業、企画列車等造成支援) ・専門家支援事業(鉄道専門家による経営指導) <p>事業費は、負担金のほか、担当課長・担当者会議等の旅費として支出する。</p>				<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="4">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
	一般財源																												
	事業費計(A)	0																											
	人件費	正規職員従事人数																											
延べ業務時間																													
人件費計(B)	0																												
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	
<ul style="list-style-type: none"> ・負担金の支出・担当課長・担当者会議参加 ・園児お絵かき列車実施(市内7園参加、128作品応募) ・利用者補助制度、各種イベント等の市広報による周知等の各種支援 		ア	担当者、担当課長会議の開催回数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	市広報への掲載回数
前年度と同様の事業に加え、開業40周年事業(特別写真展、沿線市町村企画等)を行う。		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
岩手県、三陸鉄道沿線12市町村、三陸鉄道株式会社		名称	
		カ	協議会構成団体数
		キ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		ク	
三陸鉄道が提供するサービスが向上し、乗客が増加する。		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		名称	
三陸鉄道の利用客が増加し、収益が改善される。		サ	利用者補助制度(グループや団体利用における乗車運賃や列車借上費用の一部補助)実績額
		シ	三陸鉄道乗車人数
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	単位	年度						
			2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	3,183	2,844	2,090	1,903	1,900	1,800
	事業費計(A)	千円	3,183	2,844	2,090	1,903	1,900	1,800	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	160	160	160	160	160	160
		人件費計(B)	千円	640	640	640	640	640	640
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,823	3,484	2,730	2,543	2,540	2,440
⑤活動指標		ア	回	3	5	5	4	5	5
	イ	回	5	4	4	3	4	4	
⑥対象指標	カ	団体	13	13	13	13	13	13	
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	千円	19,000	21,757	15,587	15,924	20,000	20,000	
	シ	万人	63	60	61	62	90	100	
	ス								

事務事業ID	0379	事務事業名	岩手県三陸鉄道強化促進協議会参画事業
--------	------	-------	--------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
三陸鉄道が開業した年である昭和59年の6月から、県と沿線市町村等が一体となって支援するという目的で開始した。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
・三陸鉄道の経営状況を見ると、昭和59年の開業から10年間は経常利益を出し続けてきたが、自家用車の普及や少子化による影響等により、平成6年度以降は経常損失を出し続けており、その補填を行ってきた。開業時269万人だった利用客は、令和5年度には62万人まで減少している。
・東日本大震災により被災し、運休していたが、3年間の復旧工事を経て、平成26年4月に全線で運行を再開した。
・平成31年3月23日にJR東日本から釜石～宮古間の路線の経営が移管され、盛と久慈の163kmをつなぐ「リアス線」が誕生した。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・三陸鉄道が令和3年に実施した、通学の交通手段に関するアンケート調査によると、三陸鉄道を利用している高校生から、「三陸のシンボルだと思うのでたくさんの人が利用できるような取組をして頂きたい」との声がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 利用者補助制度等、利用者にとって魅力ある事業を実施していくことは、三陸鉄道の乗客増加につながる。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 三陸鉄道は、地域住民や観光客等にとって必要不可欠な公共交通機関である。経営状況が厳しい中、利用促進の支援を行うことは、沿線市町村である当市の役割として妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 協議会の構成団体である岩手県、三陸鉄道沿線等12市町村が、三陸鉄道利用者にとって、魅力ある事業を行うことが乗客増加に繋がり、地域の活性化や三陸鉄道の収益改善につながる支援であり、対象・意図とも妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 観光客をターゲットとした競争力の高い企画列車を開発し、広報を強化することで乗客増加の余地があるため、協議会へ改善を求めていく。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 三陸鉄道の利用者が減少し、収益が悪化することで三陸鉄道の運営・維持に要する当市の財政負担が増加する。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 協議会の構成員である岩手県及び沿線等12市町村毎に負担割合が定められている金額であり、事業費の削減余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 必要最小限の人数と業務時間で対応しており、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 地域公共交通サービスの充実及び地域振興に資する事業であり、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																		
2 改革改善(縮小・統合含む)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×	沿線市町村の人口減少が進む中で、地元利用のみならず、観光客等の利用促進が課題となっていることから、岩手県、沿線市町村、三陸鉄道が連携して企画列車の開発や広報の強化を行っていく。
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	●																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																				

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	人口減少や少子高齢化等により、三陸鉄道の利用者が減少する中において、利用促進を図るため、より効果的かつ費用対効果の高い各種事業を展開していくよう、協議会に対して強く求めていく必要がある。